

● LESSON-2 単数と複数

英語は日本語と違い、常に人やものの「数」を意識する必要があります。

例えば日本語で、『ボク、大きな犬を飼ってるんだ。』と友達から聞いた場合、その犬が1頭なのか、3頭なのかは全く分かりませんが、英語では、特にその頭数を言われなくても、その犬が1頭なのか2頭以上なのかは分かるようになっています。

まず、「単数」と「複数」の意味を正確に理解しましょう。

▼**単数** →1人、1つ、1個、1匹、1頭、1台、1本、1冊、1件、1枚・・・・・・・・

▼**複数** →2人以上、2つ以上、2個以上、2匹以上、2頭以上、2台以上・・・・・・・・

*~以上とはその数も入る

■ 単数（1人、1つ…）

英語では単数の場合、基本的に「a」か「an」をその単語の直前に付けます。

◆ I have **a** dog. 私は犬を(1頭)飼っています。

『大きな犬(**big dog**)』を飼っている場合は、大きな犬(**big dog**)がひとかたまりなので…

◆ I have **a big dog**. というように、「big dog」の前に「a」を付けます。

先程説明したように、英語と違って日本語はあまり「数」を気にしませんので、和訳する場合には『1人の～、1つの～』は入れなくても構いません。

■ 「a～」と「an～」の使い分け方

「a～」も「an～」も、両方とも単数を表すことに違いはありません。

どちらを使うかは、その付けようとしている**単語の最初の発音**で使い分けます。

普通は「a～」ですが、付けようとしている**単語の最初の発音が母音**（日本語のア・イ・エ・オに近い音）の場合は「an～」になります。

◆ This is **a** pencil. → 「ペンシル」なので母音ではない → 「a～」

◆ This is **an** eraser. → 「イレイサー」なので母音 → 「an～」

この最初の発音が母音の基本的な英単語には「apple, album, umbrella, egg, elephant, orange, old～」などがあります。

■ 単数でも「a～」も「an～」も付けてはいけないケース

単数ならば、何が何でも「a (an)～」を付ければ良いというものではありません。

「a～」も「an～」も付けてはいけないケースが2つあります。

① 所有格（～の）

「my～(私の～)」 「your～(あなたの～・あなたたちの～)」 「his～(彼の)」 「her～(彼女の)」

「its～(その～)」 「our～(私たちの～)」 「their～(彼らの・彼女たちの～・それらの～)」

「Tom's~(トムの~)」 「my sister's~(私の姉の~)」 というように、その人やものの「**もの、家族など**」を表す語を「**所有格**」と言います。これには、「a~」も「an~」も付けてはいけません。

- ◆ ✕ my brother my ✕ brother
- ◆ ✕ Ken's cat Ken's ✕ cat

② 固有名詞

人の名前(人名)、国の名前(国名)、土地の名前(地名)、山や川の名前など、**それだけが持っている固有の名前を「固有名詞」と言います。**これにも「a~」や「an~」を付けてはいけません。

- ◆ ✕ Susan (スーザン) ✕ Japan ✕ Ichikawa ✕ Mt. Fuji (富士山)

この2つのケース以外では、数えられるものが単数ならば、基本的に「a~」か「an~」を付けることを忘れないで下さい。

■ 複数 (2人以上、2つ以上)

その人やものが複数の場合はもちろん「a~」も「an~」も付けてはいけません。それらを付けない代わりに、その**単語の最後に「~s」か「~es」を付けます。**この「~s(es)」を付けた形を「**複数形**」と言います。以下に複数形の例をあげます。

~s		~es		不規則変化	
単数形	複数形	単数形	複数形	単数形	複数形
pen	pens	dish	dishes	child*	children*
book	books	watch	watches	man	men
student	students	box	boxes	woman	women**
American	Americans	class	classes	fish	fish (単複同型)

*単数は「チャイルド」、複数形は「チルドレン」と発音 **ウィミンと発音

■ some~と any~

これまでに何度か解説した通り、日本語と違い、英語は『**単数なのか、複数なのか**』を常に意識している言語です。その複数を表す際、『**ハッキリしない適当な複数**』を表すのが「**some~**」で、英語ではよく使われます。和訳するとすれば「**いくつか(の)~**」とか「**何人か(の)~**」になりますが、日本語は数にこだわらないので、**和訳しなくても構いません。**しかし、和訳しなくとも『**複数を表す**』ことは忘れないで下さい。

- ◆ I have **some** Japanese friends. →私は(何人か)日本人の友達がいます。

この「some~」は基本的に**疑問文と否定文では「any~」**に変わります。

- ◆ Do you have **any** Japanese friends? →あなたは(何人か)日本人の友達がいますか。

また、**否定文での「any～」は「1人もいない」「1つもない」と言うように『全く無い』という意味**となります。この「any～」の否定文だけは、はっきりと「1人もいない」「1つもない」と和訳するようにしましょう。

◆I don't have **any** Japanese friends. →私は日本人の友達が**1人もいません**。

「疑問文と否定文」の作り方は動詞の種類によって違います。後で詳しく説明しますので、今は分からなくても大丈夫です。

◎ポイントの復習

- ① 「単数」→1人、1つ 「複数」→2人以上、2つ以上
- ② 「a～」と「an～」は単数を表す
- ③ 「an～」は付けようとしている単語の初めの発音が母音の時に使う
- ④ 「所有格(～の)」と「固有名詞」には「a～」も「an～」も付けない
- ⑤ 適当な複数を表す「some～」は普通の文(肯定文)に、「any～」は疑問文と否定文に使う
- ⑥ 「some～」と疑問文の「any～」は和訳しなくてもOK。
- ⑦ 否定文の「any～」は「1人もいない」「1つもない」と必ず和訳する

